

合併で一部事務組合 どうかわる！

今日、全国で市町村合併の論議が進む中、Y広域消防の地区が市町村においても本格的な合併論議が高まっており、消防組合の在り方も大きな変革が予想されています。そこで、Y消防本部でも市町村合併にたいする知識を深めるため、9月13日、F県総務部地方課から講師を招いて、市町村合併全般についての研修会が行われました。

講師は、広域の組合消防は、市町村の負担金で業務運営がなされており、Y地区消防本部について「合併すれば、行政のスリム化が図られ、財政にも余裕が生まれる」と、市町村合併のメリットを強調。参加した職員からは地方交付税についての質問など活発に意見がだされるなど、熱心に耳を傾けていました。

また、他の地域においては、現在の広域消防管内の市町村が合併区域の市町村と分かれる問題等が生じるおそれのところもあり、今後、合併で一部事務組合等の消防がどうかわるか悩めるところもありそうです。

油流出事故に備える！

福岡県 八女地区消防組合消防本部



9月21日、八女市矢原の矢部川において、八女消防本部の指導のもと、オイルフェンスの取り扱い訓練が行われました。この訓練は、万が一、オイル流出事故が発生した際、被害を最小限に食い止めるため行われたもので、当日は県や市町村の職員、農協職員、矢部川漁業組合員など6団体約100人が参加して行われ、訓練は、八女消防本部職員がオイルフェンスの取り扱い方法や敷設方法を説明した後、参加団体が交代で消防職員の指導を受けながら、実際にオイルフェンスを敷設しました。参加者は、取り扱い方法を真剣に聞き、実際に体験することによって、あってはならないことですが、万が一の事故発生に備えることが出来るようになりました。

第26回屋内消火栓操法大会

大阪府 泉佐野市消防本部



平成14年10月17日（木）午後1時10分から泉佐野市内の不土製油（株）阪南事業所グラウンドにおいて泉佐野市火災予防協会主催による「第26回屋内消火栓操法大会」が開催されました。当競技会は市内の屋内（外）消火栓設置事業所を対象に防火意識の高揚と、迅速、的確かつ安全に初期消火を行うための技術練磨を目的として、昭和52年から毎年開催し、今年で26回目を迎えています。参加チームは、42事業所46チームの自衛消防隊員が参加、A・B両ブロックに分かれ、熱のこもった競技が展開されました。競技は、グラウンド上に設置された屋内消火栓設備を利用し、35メートル前方の「火の用心」と書かれた4個の標的を、放水により落とすこと、ホース収納タイムや操作、規律等を競うもの

として行われました。

「自主防災組織リーダー研修会」の開催



平成14年度山形県自主防災組織リーダー研修会が、山形県消防学校において10月21日～22日に各市町村自主防災の代表等89名が参加され開催されました。今年、山形では、平成12年から13年にかけて県内の活断層の調査を実施した結果、近い将来動くであろう活断層が発見され、発表されたことにより県民の防災意識も高まり、また、不安も大きく、多数の参加となったもので、2日間各講師の講話、防災知識・技術の習得のほか、活発な意見交換等を行い自主防災リーダーとしての意識向上が図られ、有意義に終了しました。

バイスタンダーと救急隊の連鎖で救命

大阪府

豊中市消防本部



豊中市北消防署は不整脈により心肺停止に陥った74歳の男性を、バイスタンダーとして救急隊に引継ぎ、救命した救急事案に対し表彰しました。救急事案は、平成14年8月16日17時30分頃、駅コンコースで心肺停止状態となった男性を、駅を利用していた当市看護師宮崎祐子さん（27歳）と日赤救急法指導員の立川領子さん（26歳）が発見、迷わず協力してCPRを実施し、救急隊に引継ぎ、救急隊の処置（除細動）の連携により救命されたものです。

幼年消防クラブ防火マラソン駅伝大会

北海道

上川南部消防事務組合消防本部



当管内で幼年・少年クラブ員(142名)、婦人防火クラブ員(77名)、その他等計731名が、平成14年9月28日(土)午後0時30分スタートで、防火駅伝が実施されました。この防火駅伝大会は、今回で第28回目を迎え、市街地及び田園地帯をクラブの選手たちが「火の用心」のタスキを胸に付け、走る風影は秋の風物詩となっており、走る選手(幼・少年消防クラブ員)はもとより、応援している沿道にいる大勢の人達に防火思想の普及に貢献する大会となりました。

少年消防クラブ員が屋内消火栓操法

群馬県

太田地区消防組合消防本部



当地区管内の、幼年消防クラブ員(256名)、少年消防クラブ員(61名)が、ごく身近に感じられる火災予防や救急業務等に対する正しい理解と認識を深めるために、平成14年10月10日(木)13時より「火災予防推進大会」が実施されました。

この大会の目的は、火災を予防し、災害から身を守るためには、家庭・職場を問わず、一人ひとりが日頃から出火防止や火災が発生した場合の初期消火、消防機関への通報などの知識を身に付けることです。このような目的から、特に少年消防クラブ隊員には、初期消火訓練と屋内消火栓操法の実技訓練が行われました。クラブ隊員たちは、慣れない訓練に、一生懸命に取り組み、防災に対する認識を改めていました。

目次

- [1 秋季全国火災予防運動・・・](#)
- [2 防火管理者講習の拡大が必要](#)
- [3 平成14年秋の叙勲](#)
- [4 平成14年度消防功労者総務大臣表彰](#)
- [5 第18回全国消防操法大会を実施](#)
- [6 少年用防災コミック「 勇気でいこう! 2 」](#)
- 7 地方からの便り
- [8 あなたも危険物取扱者・消防設備士に](#)
- [9 日本防火協会からのお知らせ](#)